



活動タイトル	医療者向け情報発信とWEBを通じたサポーター施策の実施		団体名	公益社団法人ア・ドリームア・デイ IN TOKYO			
<p><b>1年間の活動（アウトプット）の目標（事業全体）</b></p>	<p>1) 過去受け入れご家族へアンケートの郵送：旅行に期待していたことや旅行後の変化を尋ねる。数家族にはインタビューも実施し写真や動画での協力も依頼する。</p> <p>2) WEBページデザイン・医療者向けリーフレットに使用するイラストの制作、WEBと印刷物で画像を使えないシーンを可視化する。印刷物（医療者向け資料とクリニック掲出用ポスター）を用意し、病児旅行中の緊急時・診察を要するときに協力いただけるようクリニックに掲出の依頼をする。</p> <p>3) WEB改修・増設：医療者向け・サポーター向けに加える内容の整理・作成、ページ制作、自主クレジット寄付機能の実装、上記の維持管理を専門スタッフに依頼し、組織基盤の強化を図る。</p> <p>4) 11月14日から16日に開催される小児血液・がん学会学術集会（於：京都）へブース出展を行い、医療関係者への認知の強化を図る。</p>			<p align="center"><b>■ 活動風景</b></p>			
<p align="center"><b>■ 活動報告</b></p> <p>○2018年11月14日から16日に開催された小児血液・がん学会学術集会（於：京都）へブース出展を行い、医療関係者へのPR活動を行った。医療従事者である理事長と副理事長が説明を行い、告知活動は順調に実施できた。</p> <p>○さらなる医療関係者の参加と協力を得るため、医療者向けのWEBページを新たに設けた。イラストを活用して協力を求めたい事業の説明を行った。また、協力クリニックに掲出してもらうためのポスターを作成し、今秋以降に協力を依頼していく体制が整った。</p> <p>○事業を安定的に実施するため、クレジット寄付機能をWEBに加えた。また、協力を得やすいよう、寄付を呼び掛ける特設ページを設けて支援を呼び掛けた。さらに、WEBページ増設並びに保守管理にあたるITスタッフを1名増員し、ニュースの配信やSNSを活用した支援の呼びかけを実施した。</p> <p>○過去に一度も実施できていなかったご家族の感想や意見を集約するため、アンケートを実施した。定量的なデータを集約しなかったが数が少なかったため、今年度は定性的な情報の集約に努めた。3家族には取材の協力を依頼し、動画とインタビューで話を聞きWEB上で公開した。</p>	<p align="center"><b>■ 1年間の目標に対する達成状況</b></p> <p>1) アンケートの回答数は7件にとどまり、定量的なデータの集約には至らなかったが、3家族にインタビューを依頼し、動画と対談式のインタビューで旅の意義や旅行後の気持ちなどを聞くことができた。</p> <p>2) 事業の様子をイラストで書き起こし、写真データを使いにくいシーンを可視化した。また、医療者・クリニック向けに協力を依頼し掲出してもらうポスターを新たに作成し、より安全な旅の基盤づくりを行う体制が整った。</p> <p>3) 自主クレジット寄付機能の実装を行い、小口のサポーターを増やせるよう導線になるページを増設した。また、医療関係者向けの協力依頼ページも増設し、それぞれの日英ページを公開した。上記の維持管理を専門スタッフに依頼し、組織基盤の強化を図ることができた。</p> <p>4) 2018年11月14日から16日に開催された小児血液・がん学会学術集会にブース出展を行い、医療関係者への認知の強化を図った。</p>		<p>小児血液がん学会での医療者向け説明</p>  <p>ご家族へのインタビュー風景</p> 				
<p align="center"><b>■ 1年間の活動のまとめ</b></p> <p>○WEBやSNSを通じて通年で情報発信を行うことができた。また、WEBページに読みものが増えたため、企業からの問い合わせも増加した。クレジット寄付機能を実装できたことにより、個人寄付の申し込みやマンスリーサポーターが増えた。</p> <p>○団体が初めて、旅行に来たご家族の声を集約する試みを行った。回答数が少なかったため定量的なデータにするには至らなかったが、数人のご家族には直接取材を行ってWEB上に登場してもらったため、旅行の様子を想像してもらいやすい状態ができた。</p>	<p align="center"><b>■ 事業を通じて得られたノウハウ</b></p> <p>○定期的な情報発信を行うことで、WEBやSNSを閲覧する人が増えた。また、ICTのスタッフに1年間の情報発信業務を依頼できたので、専門用語に偏らない表現が増えた点も広報に役立った。</p> <p>○医療者向けにさらなる協力や参加を呼び掛ける広報物を作成するとともにWEBサイトを更新し、イラストを活用した協力を求めたい事業の説明を行うことにより、病児のより安全な移動が可能になる見通しが立った。</p>	<p align="center"><b>■ 実施した人材育成策</b></p> <p>○ICTスタッフには、技術的なサポートだけでなく、理解してもらいやすい簡潔な表現を用いるよう工夫を促し、情報発信の表現の幅を広げるようにした。</p> <p>○過去に作成したWEBページの表現も日英共に見直し、発信する情報の整合性にも目を配ってもらうように努めた。</p>	<p align="center"><b>■ 活動成果のアピールポイント（自由記入）</b></p> <table border="1" data-bbox="1666 1237 2439 1355"> <tr> <td data-bbox="1666 1237 1841 1355">この1年間の活動を通じて</td> <td data-bbox="1841 1237 2254 1355">情報発信の強化により、医療関係者等の理解が深まり、支援の裾野拡大</td> <td data-bbox="2254 1237 2439 1355">を達成しました。</td> </tr> </table> <p>医療関係者：団体の存在を認知してもらう機会が増えた。学会で資料を見たある大学病院の小児がん支援センターから問い合わせがあり、先方が発行するブックレットの中で事業を紹介してもらう機会を得た。</p> <p>難病児・ご家族：WEB上に旅行を経験した家族のインタビュー記事を載せたので、事前に見てから問い合わせや申し込みが増加した。</p> <p>サポーター：ICT担当者を増やしたため、サポーターへの定期的な情報発信ができて支援の裾野が広がった。</p>		この1年間の活動を通じて	情報発信の強化により、医療関係者等の理解が深まり、支援の裾野拡大	を達成しました。
この1年間の活動を通じて	情報発信の強化により、医療関係者等の理解が深まり、支援の裾野拡大	を達成しました。					